



学校だより

No. 1

東京都立多摩科学技術高等学校

平成29年 5月 31日

学校だよりでは、本校での行事や情報を掲載していく予定です。本校の教育活動について皆様に知っていただけるよう、よりよい情報をお届けしたいと考えています。

校長先生より挨拶

「主体的・対話的で深い学び」

校長 白鳥 靖

着任2年目となりました校長の白鳥靖です。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。今年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、今回は今年度告示予定の次期高等学校学習指導要領について、少しお話させていただきます。高等学校では、平成34年度から本格実施を予定している次期学習指導要領ですが、平成27年8月の「論点整理」や平成28年8月の「審議のまとめ」などにより、すでに多くの情報は公表されています。「社会に開かれた教育課程」という理念のもと、理念を具体化するための方策の中から、「主体的・対話的で深い学び」というキーワードについて触れたいと思います。

この「主体的・対話的で深い学び」とは、以下のような学びを示すとされています。

主体的学び：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること

対話的学び：子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること

深い学び：各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見出して解決したり、自己の考え方を形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かうこと

本校が実施している研究活動は、これまでの経験や授業等で興味関心を持ったことについて社会とのかかわりを考えながら、教職員や仲間と相談しながらテーマを設定し、主体的に取り組んでいくものです。研究の過程では、グループ内の仲間と協働し、仮説を立て検証のための実験や観察を繰り返し、普通教科で得た知識を活用したり、先行研究や参考文献の調査を行ったりしながら対話的に進めていきます。まとめの段階では、プレゼンテーション形式で発表を行うことにより、研究成果を分かりやすく第三者に伝える努力をします。まさに、「主体的・対話的で深い学び」ではないでしょうか。

本校は、研究活動を通して、すでに「主体的・対話的で深い学び」を実現しています。生徒のみなさん、自信をもって研究活動に突き進んでください。

副校長先生より挨拶

「学生生活は何のため」

副校長 猪又英夫

私は風呂が好きで、湯船に入ると頭のとっぺんまでお湯に浸かってしまう。もう、頭中までふやけてしまいそうな感覚がたまらない。そして、何事もこうならば幸せである。

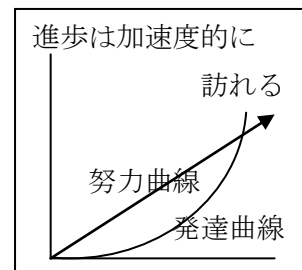
何かを身につける1番簡単な方法はそのことに、足の先から頭のとっぺんまでどっぷり浸かってしまうことである。しかし、仕事をしてからどっぷりつかったら、社会生活に支障をきたしてしまうだろう。だから、学生生活（高校・大学）が必要なんだと思う。それ故、学生生活の中で、一つのことにとっぷりつかるのも良いことだと思う。

それでは、初歩の域を抜けるには、どのくらい「湯船」に浸かれば良いのだろうか。

たとえば、縄跳びの二重回しが、連続100回ぐらいできるようになると、三重回しが出来るようになる。落語の修行に「小咄100回」というのがある。将棋を覚えるのに、「まず100局指してみる」といわれる。注意深く集めれば、この種の教えはいろいろな分野にあるはずである。

100回ほどの努力の蓄積があると、そこには質的な変化が見られるようになる。「10回（100日）の努力の蓄積がなされると、成長が急速に訪れる」という法則になるようだ。

『上達したければ、努力を一つ一つ積み重ねるしかない。勉強でも、遊びでも、スポーツでも同じことだ。でも、努力したといっても、上達は一步一步目に見えるようには訪れない。一日努力しても、一日分の上達が訪れるわけではない。毎日毎日努力しても、ちっとも成長しない日が続く。でも、目には見えないけれど、体の中に蓄えられている。100回ほどの、または100日ほどの蓄えが出来ると、いっぺんに目に見えるように進歩する。』



見通しのないやみくもな努力より、見通しのある努力の方が、進歩は加速的にやる気も持続できる。野球の世界で良く知られる「1000本ノック」など、1000回の努力の蓄積は次のステップへの目安である。柔道でも、将棋でも、受験でも1000時間の努力をすれば、初段レベルになれると言われる。次のステップには3000時間、最高を目指すなら6000時間が必要とも言われているが。

ところで、将来、仕事をするとは、1つのことにとっぷりつかることに他ならない。いろいろな仕事の中で、その「湯船」が研究であり、つかりっぱなしの人が大学の先生というわけだ。

学生時代、部活でも、趣味でも研究や受験勉強にも、これを一つの目安としてどっぷりと浸かってほしい。

生徒会長より

生徒会長

こんにちは！1年生の皆さんはそろそろ学校生活に慣れたでしょうか。パソコン室やゼミ室がたくさんあり戸惑っている頃でしょう。科学技術科である本校は一般的な高校生活とは異なる事がたくさん学べます。科学技術概論や4領域を学び、科学に溢れた日々を楽しんでください！しかしそれだけではなく、体育祭や多摩未来祭などの学校行事や部活動、生徒会活動にも一生懸命取り組み、高校生活を満喫してください！生徒会役員会もその支えとなれるよう、皆さんと共に日々精進していきます。

各学年の雰囲気・遠足の感想

○第一学年 猪鼻 真裕先生・西村 俊宏先生

4月28日（金）、1学年は遠足で富士山世界遺産センター（1・2・3組）と富士山科学研究所（4・5・6組）を訪れました。富士山世界遺産センターでは、南館をガイドの方に案内してもらい、北館は各自自由に見学しました。富士山科学研究所では、2班に分かれ「宇宙から見る富士山」と「キッチン火山学」をそれぞれ受講しました。「キッチン火山学」ではペットボトルを使った実験で火山の噴火の仕方を学びました。また、午後は浜の屋キャンプ場でほうとう作りを経験し、自分たちで協力して作ったほうとうをおいしく頂くことができました。この遠足を通じて学年・クラスの親睦もさらに深まったことでしょう。今後の学校生活や各行事もぜひ楽しみながら精一杯取り組んでいてもらいたいと思います。

○第二学年 高橋 大輔先生

2年生は横浜方面へ遠足に行って参りました。修学旅行の練習も兼ねて東京駅に集合しましたが、生徒のみなさんが余裕をもって集合をしてくれたので、予定よりも早く出発することが出来ました。今回の遠足は班別自由行動でしたが、横浜は青空で吹きぬける浜風が心地よく、街を散策するにはうってつけの天候で、中華街や赤レンガ倉庫、カップヌードルミュージアムなど横浜ならではの施設を訪れた班が多いようでした。この遠足を通して新しいクラスでの友達と親睦を深め、団結力のあるクラス・学年にしていきたいと思います！

Three missions are completed☆

○第三学年 橋本 利彦先生

第3学年の遠足は、東京ディズニーシーでした。プライベートで遊びに行くのではなく、校外学習であるため、「班別自主研修を通じ、情報収集力、企画立案力、物事に積極的に取り組む姿勢を養う」「新クラスでの親睦を図る」「建築物や土地の高低差の技法、音響効果、植物の管理、ショーやアトラクションで使われている技術などを自ら観察することで科学技術を学ぶ」以上の3点を目的に実施いたしました。

目的を意識することで、普段とは異なる目線で園内を観察する生徒も多く、建物の造形や歴史的背景、植物の種類などを丹念に見学するとともにショーの構成などを楽しみながら科学を感じる機会となったと思います。当日は天気もよく、大変空いていたため色々な場所を見学できると共に笑顔のまま解散していく生徒の姿を見て良い遠足であったと感じました。

今年度赴任した先生

よろしくお願ひします。

- ・門松 加代子（地 歴）
- ・小澤 栄美（科学技術）
- ・宮本 泰（数 学）
- ・高萩 慶太（地 歴）
- ・小澤 優子（体 育）
- ・福山 勇斗（科学技術）
- ・東 英道（科学技術）
- ・白田 孝子（英 語）

(7月未までの行事予定)

6月

- 1日（木）体育祭予行
- 2日（金）体育祭
- 6日（火）体育祭予備日
- 7日（水）模試（3年）
- 12日（月）～17日（土）授業公開
- 14日（水）生徒会役員選挙
- 15日（水）進路講演会（3年）
- 17日（土）SSH 理系女子生徒による研究発表交流会
シンガポール研修参加者保護者会

7月

- 1日（土）～5日（水）1学期期末考査
- 9日（日）開校記念日
- 12日（水）模試（1～3年）
- 15日（土）～16日（日）宿泊防災訓練（1年）
- 19日（水）アドバイザー授業（1・2年）
- 20日（木）終業式
薬物乱用防止教室
- 21日（金）夏季休業日開始
読書月間開始

